黒岡新聞

発行　昭和50年7月3日(木)
発行所　長野県伊那北高等学校 刊行委員会
発行人　中山雅恵
編集人　石沢真一
印刷所　合資会社　中山印刷所

〝模索と創造〟への追求

▽……今年もまたペン祭が幕を開けようとしている。会員全員の積極性に欠けた生……△
▽……徒総会を見て、生徒諸君はどのように思ったのであろうか。我々伊那高生に……△
▽……とってペン祭がどのような意義を持っているのか、ペン祭を前にもう一度振……△
▽……り返って考えてみる必要があるのではないだろうか。

ペン祭とは頑張る事業なのだ

生徒会長　伊藤正明

この原稿を書いているきょうは六月四日。つまり生徒総会の前日なのである。いや現在もう六月五日の午前二時なのだ。きょうはどうなるか楽しみなのだ。

話は変るがなぜ現在俺が会長をやっているのは、自分でも全くもってわきゃわからん。俺がやっていなかったら、岩村君か小暮がやっていただろう。小暮か、小暮という名は自分で書きながら本当に久しぶりに聞く名だ。しかし忘れることのできぬ名だ。彼は本当にバカといわれるバカで、常に自分というものすべてを出し尽くしていた。いいやつだった。彼のことだから今も元気でやっていることだろう。それともつぱりになっているのかな?。

徒総会の前日なのである。

この原稿は途中から学校に来て授業中に書いているのだ。小林透君がいっしょうけんめい(漢字はにがてなのだ)改正案を書いていた。改正案が出た方がもりあがりがあっていいから力一さんがんばれ。この「がんばる」という言葉を現国の時間にあつかったことがある。教科書の中に結婚という事業も「頑張らなければ……。」という文章があったが、頑張るのはあたりまえだ、そんなことを知らぬやつがいたのか。新婚旅行の出発のときに、「頑張ってね」といわずに何という、「気をおとさないでね」とでもいうのか。まああの文章は、この部分しか読んでないから、どういうことを述べているのかは知らないが……。

エー、何か質問はあるかね、エッ、ウン、マーナンダネー……　授業中に書いているとこういうことばだけが耳に入ってくるのだヤーゴクロー。本当に何を話しているのだ。

三井、おめえはいい時に会長をやったな。俺はもうだめだ。ペン祭は、ほんとに一ケ月ないのだが、何かをやらなければ、やらなければ、と思いながら何もできずに、こうしてくだらねえ文を書いているのだ。くだらねえ文を書く生徒会長はおめえとおれくらいで、来年からはもう二度と出ねえような気がするな。ラグビー部から出た会長はこんなんぐ書いてもみっともねえだけよ、ラグビー部はみんなこういう人間なのだ。

大なる者の小なる者への圧力は、小なる者の最大なる抗力を呼び起し、その力は、大なる弱者の最大の恐怖なのだ。しかしそれを知らぬ小なる者がいるから、大なる弱者が大なる強者として、小なる弱者と思いこんでいる、小なる強者に対するのだ。大なる者よ、去年の圧力が、小なる俺たちに、弱と思いこませたと思っているのか、俺たちはちがう、小なる強者だ、そう自覚している。俺たちがこの世界を出たらどうなるか知らぬが、まだまだ俺たちはこの世界にとどまるのだ。またくだらぬ文を書いてしまった。ペン祭ガンバロウ、みんなでガンバロウ。三年生は最後のペン祭じゃねえか、俺のような会長でたよりないかもしれない、だからみんなでガンバロウぜ。ペン祭とは「頑張る」事業なのだ。

本日臨休

学校長　加藤裕

今年も学年はじめに電車・バスがとまり授業が中断され今年こそと意気ごむ出鼻をくじかれてしまった。今の社会情勢の中での天災的人災だとスト自体はもはやあまり驚きもしないけれども、いかさまあらかじめ予定されていない本日休業なのでその心構えも確々したものでなく、その計画も全く安定していない。

学校には学校の確保と計画した授業の時間量が要するに休業としての意義づけができていないことである。しかも明後日もどこか遠くで前線が停滞するのか、前進するのか天気予報より予想のつけにくい、そして問い合わせるところもない状態は、教師にとっても生徒にとっても困惑することである。

学校の確保と計画した授業の時間量があり、これは唯量だけのことでなく質的水準を維持する見通しと寛度であるが、程度の高い授業をすれば量などどうでもよいという理屈もあるが授業とは授と受との接点の問題であり、消化と不消化の判断の問題もあり、密度の高さは言うは易くしてなかなかに困難なことである。雑音作用は機械工作とはその内実の次元が異ることである。それでは休んだら埋めあわせればよいではないかという考え方は当然である。唯あけておくより埋めればその方がましであることは確かであろう。しかしより考えて見れば埋め合わせも所詮埋め合わせに過ぎない。

その折この時の経過と継続の流れというものは唯時間量という非情のものでなく、有情の流れがあり、一生涯に一度しか有情の対象に投影されていくのが一体本来の姿である。――仕方がない――電車がとまりバスがとまるといつもこんな思いをくり返しながら一方では中川から小野まで拡散する通学の実感と歩いても来れる実感とに思い悩みながら仕方がない、無理するなとわれとわが心にしよく言いきかせつつも、少し大げさではあるがやり直しのきかない生涯、二度と今のときを再現することのできない青春のとき一期一会という言葉が鋭く心に突き刺さることである。一生涯に一度しか今のときはないものである。この今のときとの出会いを本当に大事にしなければとり返しのつかない悔を残すことになりはしないかと少し大げさにも思うことである。一面人の一生はそうそう予定通り計画通りにいくものではない。病気もあれば怠慢もあり、思はぬ蹉跌もある。だがそれらを含めて誰も他人は補ってはくれない。自分がそれを埋めていくより仕方がない。本日休業の代りに農休を零にしても夏休みを短かくしても、それは挽回の外部条件の一部がいまだに過ぎない。それが本当の挽回になり、充実になるためには、ひとりひとりの基本姿勢のきびしさがなければマイナスをプラスにすることはできない。今年もさつきが色とりどりに咲いている花は年々さいさい咲くけれど、生きている人は今年と来年は違うことである。本日臨休が本当に臨休とならないようにしたいものと思う。

反省望む生徒総会

会員の無関心目立つ

ペン祭は我々にとって最大の行事であり、最も有意義な行事のはずである。そのペン祭の行く方を決める生徒総会が、六月五日(木)に行なわれたのだが、この生徒総会はペン祭への雰囲気を盛り上げただけでなく、新たに幾つかの問題を生み出したように思われる。

まず我々一般会員について考えてみると、一番大きなものは、一人一人がもっとペン祭に関心を寄せて積極的に取り組んでほしいものだ。また今回の総会で一年生の意見が全く聞かれなかったのは、無関心、無責任のせいでもなろうがいくら初めての経験だからといってこんな様では困ると思う。初めてのペン祭だからこそ、分からない所はなければいけない。分からない事だらけでどうやってペン祭に臨もうというのだろう。「これから自分の手でペン祭を作ってゆくんだ。」という意識を持ってもっと自主的に発言してほしかった。

次に執行部についてだがさらのように頭をもたげて出てくるわけがない。結局我々は執行委員に一人相撲を取らせて、それを冷かしているにすぎないのではないだろうか。

こんな各自の無責任、無関心の中から充実したペン祭が生まれるわけがないしペン祭の終った後に有意義なものが残るわけがない。

なぜ我々は、ペン祭に臨もうというのだろうか。本来改正案は、もっと大きな意味を持っていなければならない。それなのに改正案が原案に及ぼした影響は一かけらもない。それは、改正案を細かい部分ごとに見ていこうとしなかったことに見て取れるのである。問題となったのはその内容であるが、S部の部員がその時の様子を聞かせてくれるからだめ。『ひどいもんだ。』『同和教育は有益だと思いますか。』は、政治が絡まってくるからだめ。『あなたは学校格差が生じるのは当然だと思いますか。』は言うまでもなく当然だと言うし『あなたは教師が聖職だと思いますか。』(NOと答えた人のみ)あなたは教師をどのように見ていますか。サラリーマン　ロ、専門職　ハ、その他』もだめその上、『あなたは男女共学を望みますか。』は女子高校における『盆栽』は伸びたいように伸びたいと言うんだからね。全く話にならないよ。」この種のアンケートは、安易な気持で出すのは危険であろう。しかし、某高校の先生方はよほど例のグループの論理にはまっているらしい。樹木は伸ばすのが自然でなわけ。その特徴を著しく失なわせ、自分にとって都合のいい型にはめこんでしまうのは人間の勝手である。その最も典型的な例が盆栽である。というのがそのグループの論理である。無茶な論理とも言えなくもないが、共鳴(木の側に立って)できなくもないのである。

生徒総会において、その議長が「討論会についてはアンケートで否決されている。」という意味の発言をした。アンケートを盲目的に信用した悪例であり、議長のミスと言えよう。最近はアンケートが盛んに活用されている。我校でも御多聞にもれず、生徒会(特にペン祭の時)・クラブが活用しているようである。しかし、アンケートは、その信憑性が問題にされなければならない。対衆、方法、人数etc……。それを抜きにアンケートを信ずることは全く危険と言わなければなるまい。

ところで、アンケートについてはこんな話を知っている。某高校のS部で、他校生を対象としたアンケートを出そうとしたが、先生方ごとに見ていこうとしなかったのだ。

盆栽を嫌悪するグループがある。何やら活動をしているらしい。樹木

井蛙

ペン祭に望む

1E　細井千章

中学校で三年間、文化祭というものを経験してきてはいるけれど、それは、いわば、教師と、生徒で造り上げたものだと思う。しかし、ペン祭は、僕達で考えて、僕達で造り上げる。そこでひとりひとりが、なにかを造り上げ、それを見て、何かを考えなければいけないと思う。

お祭りの要素も多分にあるとは思うけれど、お祭りにも、その何かは、あてはまることだろう。

したがって、個人で、あるいは、集団の中のひとりとして、何かを造り出し、全く違うことでも、何かを感じ、考えることが大事ではないかと思う。だから、皆がそういう態度でペン祭に臨んだらいいのではないか。

そういった態度が、ペン祭の成功を促す根本となるのではないかと思う。そのような心がけが、全体に起こってくると、結果はどうであれ、ペン祭というものに対して、新しい、観念というもうべき考えが生まれてくる。それが、ペン祭あるいは、次のペン祭にきちんとした態度が生まれると思う。

最後、昭和五十年度のペン祭は一回きりであるからなんとかいい結果をもたらしてほしいものである。

成功させようペン祭

2A　Z・X　生

最近、上伊那でも7月の同時期に学校祭を行なう高校が増えて来たようだ。

この事はある面では大きな問題であると思う。学校祭では一年間の研究の成果を外部に発表し、その反応意見からさらに研究を深める。それなのに他の高校生が来なくなる。我々としては同年代者の意見を一番待っているのだ。また来る待じだ。他校祭は翌年の自分達の学校祭の成功の鍵を握っているのだから。

ここで問題となるのは何故こういう体制にもってこられたのかということだ。この事は、はっきり言って今年のペン祭の障害となるだろう。しかしそれでも、全員の団結と協力でペン祭を成功させようではないかあるし、それは他校生から見ても同じ。

また今回の総会では、改正案が全面否決されてしまったが、なぜ改正案を部分的に認めようとしないのだ考え、行なおうとしているかを知ることは大変興味深いことであるはずだ。

今年のペン祭では、今まで校内祭で行なっていた討論会を広場の一環として行なうようだ。つまり他校の生徒が自由に参加でき、大いに意見を交換できるというわけだ。これが成功すれば、ペン祭にとって大きな飛躍になると思う。しかしだ他校生が来ないのではその意図が消滅してしまう。

他校の学校祭に対して僕らは非常に興味があるし、

感したのは北高生の在り方だが、無責任・無関心などと一般に四無主義などと呼ばれる傾向に溺れ、野次・罵声のみというこの姿を君達はいったいどう思っているのだろ。諸君、これから高校生としての自分の在り方というものを、真剣に考えてみるべきではなかろうか

特集　クラブを見詰め直そう！

◇……君達はクラブ活動というものを一体どう思っているんだろう。クラブ活動と……◇
◇……は本来、生徒手帳にもあるように――各自の高校生活を一層幅広いものとする……◇
◇……機会――であるのに、君達の回りを見てみたまえ／クラブ活動を……◇
◇……参加していない人間があまりに多くはないだろうか。現在の高校生活には、ク……◇
◇……ラブ活動など必要なくなったのだろうか……。
◇……そこで我が刊行委員会は、高校生活の中において次第と蛇足化の傾向に陥って……◇
◇……来ている、クラブ活動の本質を見詰め直すという意味において、クラブ活動を……◇
◇……賛否する両者の意見をを聞き、現在我々にとってクラブ活動がどんな位置を占……◇
◇……めているのか、特集を組んでみることとなった。

この特集では先に述べられているように「高校は予備校と同じ」とまで言われるようになったクラブ活動の不必要化を問題とし、クラブ活動を賛否する両者の意見を聞いてみるために、クラブ活動をやっている人に対しては、

1なぜクラブ活動をやっているのか（クラブ活動をやっている目的・理由）
2クラブをやるのに障害・犠牲はあるか
3クラブをやって何を得たのか
4クラブをやっていない人をどう思うか

の四点について、クラブ活動をやっていない人には、

1なぜクラブ活動をやらないのか（理由・障害）
2クラブをやっている人を見て、どう思うか

の二点についてのインタビューを行なった。

そして各々のインタビューを

1なぜクラブ活動をやっているのか（やらないのか）
2クラブをやるに当って何か障害はあるのか
3クラブをやって得たものは何か
4クラブをやっている人（やっていない人）をどう思うか

の4項目についてまとめ、結論として、

5今後我々はクラブ活動にどう臨むべきか

を導こうというのである。

尚、左下のかこみは、参考としてクラブ活動を賛否する若各一名にそれぞれクラブをやっていない人、クラブをやっている人をどう思っているのか書いてもらった。

これらの意見を総合してみると、クラブ活動をやっている人達が障害なども別にないと言っている以上、クラブ活動が勉強などに差し支えるということはなさそうだが、少数ながらクラブ活動をやっている人が、「勉強時間」に難を感じていることも事実である。

一、なぜクラブ活動をやっているのか（やらないのか）

これは実に抽象的な質問ではあるが、クラブ活動の本質を考える上で最も重要なことだと思われる。

まず、「なぜクラブ活動をやらないのか」のインタビューについてまとめる。このインタビューの答えの中には、「適当なクラブがない」という意見が多く見られたが、インタビューの様子からは〝言い逃れ〟という感じがした。また、「めんどうである」「おもしろくない」更にかこみの中にある〝クラブ批判〟の中に「クラブはどうしてもやりたい奴がやればいいのだ。」という意見もあったが、これらの中には第2項での「何か障害はあるのか」という質問に対しては「勉強時間の削減」と答えているのがあり、やはりこれらも「適当なクラブがない」という意見と同様具体的な理由ではなく、単なる言い逃れのようだ。

また他には、つい先日クラブをやめた某君が、「クラブ活動が活発でない。」という意見を上げている。この意見は他にも多く上げられており、これはクラブに幻滅してやめてしまう人も結構いることを裏ものがたっている。（クラブ活動に参加しない人が増える原因の一つとして考えられる。）尚、これは〝クラブ批判〟の中でも、「あまり活発でないようなクラブ活動に時間を費やして、人より自由時間が少ないなんて……。」というように明確に書かれている。

これらの意見に反して、クラブ活動をやっている人達は、「勉強以外に何か打ち込むものが必要」「何かに熱中して力いっぱいやりたい」という、精神面の充実を主張する人、「身心を鍛える」「趣味を兼ねている」「勉強だけでは得られないものを得るため」など実利的な意見の人、「縦のつながりを持ちたい」という友交を望む人など、クラブ活動に対しては多くの目的を持っているようだ。

二、クラブをやるに当たって何か障害はあるのか

ではクラブ活動をやるに当たって何か障害があったり、クラブ活動をやることで犠牲となっているものがあるのだろうか。

これについて、クラブ活動をやっている人達は、殆どが「充実していて障害などない、強いて言えば金銭面やペン祭・テストの前にわずかに抵抗を感じる程度」で、勉強に関しての支障を上げていないのに対してクラブ活動をやっていない人達は「勉強時間がもっと欲しい」「自由な時間が欲しい」などと、勉強への支障・時間の束縛を訴えている。

これらの意見を総合して考えてみると、クラブ活動をやっている人達が障害などは別にないと言っている以上、クラブ活動が勉強などについて触れることにしよう。

まず、インタビューの中の意見を見ると、「クラブを通じて、縦のつながり（重視していないようだ。学年を越えたつながり）をこれに「交友」についても全く触れていないが、やはり「何を得たか」の最も大きな要素の一つに〝交友〟が考えられるということではないだろうか。

三、クラブをやって得たものは何か

この項では、第一項に見られる「クラブでなければ得られないもの」は価値、「大事な時間を浪費して得られるものが、そんなに大切なのだろうか。」などというように、〝クラブによって得られるもの〟をあまりしなければいけない」という主張を含めているのだろう。その例としては、インタビューの中に「クラブはやった方がいい」と好意的な意見が見られる。

四、クラブをやっている人（やってない人）をどう思うか

まず、クラブをやっている人達は「ふざけている」「軽蔑する」というようにいう人をうらやましく思う」というようにうらやみ型から、「やりたい奴はやれ」「ご苦労なことだ」という無責任型と様々であるが、ただ、クラブをやっていない人達の中で、「自分の知ったことではない」ということが最良の手段とはいえない。ここでクラブは絶対にマイナスになっない。と断言はできないが、インタビューの結果を見てもわかるだろう。ただ、それを3年生に望むのは無理としても、1・2年生でクラブをやっていない諸君、もう一度前の4項を見ていただきたい。クラブ活動をやっている人の大部分（運動クラブのわずかな例外はあるが）はクラブ活動を少しもマイナスに感じていないし、それどころか第3項にみられるように、多くのプラス面（特に友達といえるのではないが）を得ているのだから、もっとクラブというものに関心をもって、もう一度クラブの存在価値を見つめ直してみてもよいのではないか。

また、クラブ活動をやっている諸君、第一項でクラブ活動の不活発について指摘があったことを忘れないでもらいたい。そして、ことでも一度みんなで、クラブの有り方について考えてみようではないか。

また、クラブをやっていない人達は、「クラブをやっている人をうらやましく思う」というようにうらやみ型から、「やりたい奴はやれ」「ご苦労なことだ」という無責任型と様々であるが、ただ、クラブをやっていない人達の中で、「自分の知ったことではない」ということが最良の手段とはいえない。ここでクラブは絶対にマイナスになっない。と断言はできないが、インタビューの結果を見てもわかるだろう。ただ、それを3年生に望むのは無理としても、1・2年生でクラブをやっていない諸君、もう一度前の4項を見ていただきたい。クラブ活動をやっている人の大部分（運動クラブのわずかな例外はあるが）はクラブ活動を少しもマイナスに感じていないし、それどころか第3項にみられるように、多くのプラス面（特に友達といえるのではないが）を得ているのだから、もっとクラブというものに関心をもって、もう一度クラブの存在価値を見つめ直してみてもよいのではないか。

また、クラブ活動をやっている諸君、第一項でクラブ活動の不活発について指摘があったことを忘れないでもらいたい。そして、ことでも一度みんなで、クラブの有り方について考えてみようではないか。

五、今後我々はクラブ活動にどう臨むべきか

最後に以上4項を総合してみると当然、クラブをやってみると、まず、第一項について見て結論を出すことにしよう。

ふー。ここまで書いてきて何となく人をだましているような罪悪感を抱くのだ。そんなバカなことがある訳ないのだ。クラブ神力がつかないなんてこともないし、運動をやることと悪いことの区別はより勉強をやったりして時間を有効に使う方がいいのだよ。その勉強の苦しみに堪えて行くことだってりっぱに精神力がつくと思う。クラブなんてどうしてもやりたい奴がやればいいのだ。あまり晴らしいかと問えば、たいのだ。ある人は自分なりにやってもできない。ある人は汚れた手を使って完成させて、大喝采を浴びる。そして、どっちが素晴らしいかと問えば、たいていはきっと前者の方が素晴らしいと言うだろう。だが、人間とは不思議なもので、いざとなると、本領を発揮して要領よく切り抜ける。そして、要領の悪い人間に指を差して、「バカな奴だぜ」と言う。そんな人間ばかりじゃないか。これが現実なのかい。」これで満足ができるのかい、これで次に来る、俺たちが背負わなければならない社会を背負うことができるのか。

本当に自分を生かすようにしても、社会をよくするにも、一人一人が世渡りを上手にしているだけじゃだめなんだ。体当りしなけりゃだめなんだ一人一人が能力の及ぶ範囲で、一人一人を本当に生かさなければだめなんだと俺は思う。

わずかに一面だけという内容の浅い特集ではありましたが、どうでしたか。

この特集又は、クラブについての意見などありましたら、今後の資料にしたいと思いますので、刊行委員会の方まで御寄せ下さい。

本文で述べているインタビューの結果の重立ったものをまとめると次のようになります。尚、インタビューの対象は、二年・三年各十名で、クラブ活動をやっている者、やっていない者各十名ずつです。また、一名が二つ以上答えているものもありますので、人数は十名ちょうどにはなりません

①クラブをやっている人

1なぜクラブ活動をやっているのか
・勉強以外に何か打ち込むものが必要。
・何かに熱中して力いっぱいやりたい。（二名）
・勉強だけでは得られないものを得るため。（二名）
・縦のつながりを持ちたい。（三名）
・趣味を兼ねている。（四名）
・身心を鍛える。（二名）

2障害・犠牲はあるか
・特になし（七名）
・勉強時間（二名）
・家人の反対

3クラブをやって何を得たのか
・縦のつながりを持てた（三名）
・一つのものをみんなの力で作り上げてゆく楽しさを得た。（三名）
・仲間を作ることができた。（三名）
・人の良い面、悪い面がわかった。
・授業では得られない知識を得た。
・体力がついた。

4クラブをやっていない人をどう思うか
・軽蔑する
・それは自分の勝手
・ふざけている（三名）
・こんな楽しいものに参加しないとは疑問を感じる。
・やった方がいい。（二名）

②クラブをやっていない人

1なぜクラブ活動をやらないのか。
・適当なクラブがない（四名）
・クラブ活動が活発でないから。（三名）
・めんどうである。（二名）
・おもしろくない。
・身体に支障がある。
・時間がもったいない。
※具体的な害としては…
・自由時間が減る。（二名）
・勉強ができない。（二名）

2クラブをやっている人をどう思うか。
・やりたい奴はやれ。（四名）
・ご苦労なことだ。（二名）
・別にどうも思わない（四名）
・うらやましく思う（三名）

クラブ批判

2年　H　N　生

春から夏へと、各方面には集中力が結局は削減された勉強を有効に使え、かえって他の人より効果的で実力のつく学習ができるといいます。

その証拠とでもいうのは大変満足感を感じているでしょう。受験雑誌、先生の話などで、モヤシ級ガリ勉を尻り目にクラブで大活躍した人が一流大学へどんどんパスするという話を耳にしたり、目にしたりします。こんな話にクラブ員の皆様は心をはずませ、また何となく自信というものが湧いてくることでしょう。

ハッスルしたい時期が来たようで、特にクラブ活動も増す増す盛んになってくる頃でしょう。

汗を流し、一つの事に熱中するのは大変満足感が味わえるなんて、クラブ員の皆様は頑張っていることでしょう。

しかし、勉強もそろそろ忙しくなっていくようなので、ここにクラブ員の皆様は相当の精神力の必要性を感じているでしょう。その、クラブで養った強い精神力、あるいは集中力が結局は削減されたいはきっと前者の方が素晴らしいと言うだろう。だが、人間とは不思議なもので、いざとなると、本領を発揮して要領よく切り抜ける。そして、要領の悪い人間に指を差して、「バカな奴だぜ」と言う。そんな人間ばかりじゃないか。これが現実なのかい。」これで満足ができるのかい、これで次に来る、俺たちが背負わなければならない社会を背負うことができるのか。

本当に自分を生かすようにしても、社会をよくするにも、一人一人が世渡りを上手にしているだけじゃだめなんだ。体当りしなけりゃだめなんだ一人一人が能力の及ぶ範囲で、一人一人を本当に生かさなければだめなんだと俺は思う。

聞いて下さい

2B　福沢　桂

一日一日があっという間に遊ぎていく。何かをしようと思っているうちに時間だけが過ぎていく。負ければそれまで、しかし、実社会においては前者の方が信望が厚いとある社会人一年生が言っておられた。

愛する伊那高生よ。君たちはどん底からはい上がって来た人間に勝てると思うか。この集団の中で本当に苦しんだ人間がいったい何人いるだろうちょっと自分が危なくなると、本領を発揮して要領よく切り抜ける。ある人は自分なりにやってもできない。ある人は汚れた手を使って完成させて、大喝采を浴びる。そして、どっちが素晴らしいかと問えば、たいていはきっと前者の方が素晴らしいと言うだろう。だが、人間とは不思議なもので、いざとなると、本領を発揮して要領よく切り抜ける。そして、要領の悪い人間に指を差して、「バカな奴だぜ」と言う。そんな人間ばかりじゃないか。これが現実なのかい。」これで満足ができるのかい、これで次に来る、俺たちが背負わなければならない社会を背負うことができるのか。

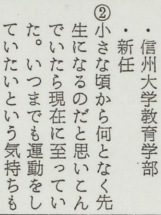
本当に自分を生かすようにしても、社会をよくするにも、一人一人が世渡りを上手にしているだけじゃだめなんだ。体当りしなけりゃだめなんだ一人一人が能力の及ぶ範囲で、一人一人を本当に生かさなければだめなんだと俺は思う。

新任先生紹介

▽……今年もまた、四月に浅川・白鳥・戸田・中村・浜田・宮下……△
▽……の6名の先生方をお迎えしました。そこで刊行委員会では……△
▽……早速、毎年恒例となっている新任先生紹介欄のインタビュ……△
▽……を行いました。尚、順序はアイウエオ順です。……△

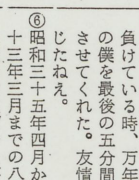
先生方への質問は次の通りです。
①略歴
・出身地
・最終学歴
・前任校
②先生になられた理由は
③好きなことばは何ですか
④趣味・特技など、何かありますか。
⑤心に残っている思い出又はちょっとしたエピソードなどありますか。
⑥本校の校風・印象又は生徒へのアドバイスなど心置きなく、どうぞ。
（カットは伊藤先生の作）

浅川司先生（保体）



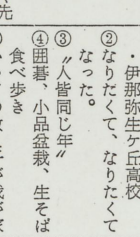
①・上田市
・信州大学教育学部
・新任
②小さな頃から何となく先生になるのだと思いこんでいた。いつまでも運動をしていたいという気持ちもあったからだと思う。
③自分に厳しいという事をいつも考えて生きたいですね。
④酒、タバコ、ギャンブルと数限りなくあります。一人でギターをつまびくなんてのもいいですね。
⑤特になし
⑥とても環境がよい学校で生徒もまじめでいいですね。もう少し運動が盛んだともっといいんじゃないかと思います。

白鳥義隆さん（校用技師）



①・南賀郡村北殿
②・手良中学校
③「ちりも積れば山となる」
・――――
「努力」
④釣り
⑤特になし
⑥特になし

戸田哲夫先生（英語）



①・諏訪郡下諏訪町
・早稲田大学
・伊那弥生ケ丘高校
②なりたくて、なりたくてなった。
③〝人皆同じ年〟
④囲碁、小品盆栽、生そば食べ歩き
⑤かっての教え子が我が家の両隣りに嫁いできて以来、夫婦ゲンカができず弱っている。
⑥現代学生気質と薫岡の伝統とが適当にミックスされている。恵まれた環境にあまえている面がありはしないかていただいて、ごく自然にこの道を選べたと思う
③「心を熱くして」
④音楽鑑賞
⑤本校3年生の時、バスケットボールで決勝まで進出した。相手校に大差で負けている時、万年補欠の僕を最後の五分間出場させてくれた。友情を感じたねえ。
⑥昭和三十五年四月から四十三年三月までの八年間本校の教員だったが、その頃に比較すると、率直にいって、生徒諸君に少々迫力が欠けているように思えるのだが。勉強でもクラブ活動でも、もっと一生懸命に、それこそ「心を熱くして」やってほしい。

中村幸人先生（英語）

①・辰野町
・一橋大学
・飯田高校
②幼い頃から多くの風格のある立派な先生方に教えであった）
③本来冒険とは、自分自身の本当の姿を見つめることである。
④いずれもこれといったものはない。ただ、スポーツはいつでもやりたいと思う。
⑤大学時代、いつも高校生にまちがえられたこと。現在は、まちがえられな

浜田国彦先生（生物・地学）

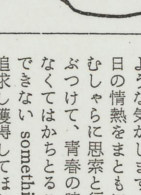
①・更埴市八幡
・名古屋大学理学部
・新任
②人と直に接する職業につきたかった。できれば若くて、これから、いろんな事をやりそうな人のたくさんいる所に、いつもいたいと思ったから（最初は、小学校の教員志望

二年前の夏の暑い日だったと思う。わたしは、なぜそこに立っていたのかも、もう忘れてしまったけれどわたしは、人いきれの中でその街頭に積み上げられた赤札のカラーテレビを見ていた。たぶん、それは偶然に違いなかった。そして、その画面に、わたしがそれを見たのもたぶん、偶然のことである。そして、それがわたしの目からは、我々の七五年と酷似しているように思えるのである。たしかに似ているだけで断定するのは危険かも知れない。しかし、類似点が多いと言うことは、その時代に似た形での不満、不平が存在しているという事だろう。だから同じ方向に向かいうる可能性が大であるとも言えるのではないだろうか。

「自動車と共に郊外に建てられた一世帯用の住宅へ大挙して国内移住が始まった。そして、これらの新しい住宅は、ラジオ、電気冷蔵庫などの家庭器具によって満たされていった。未曾有の好況がやって来た。地価が暴騰を始めた。好況の中で自己資本の巨大化を進める企業の過剰流動性資本が土地に株に走る。政府と資本家は「新しい時代が来た。経済は拡大する」と、まるで、ユートピアが現出したかの如く狂喜し、事実という意味でくり返されるGNPが成長を遂げる。―資本家は「新しい時代が来た。経済は拡大する」と、と言っても、これは、あの二年前の盛夏の幻の如き日

いようにネクタイをしている。
⑥校風はまだよくわかりません。学校の中で、いつもすがすがしい気持ちでいられたらと思います。

宮下幸弘先生（英語）



①・伊那市御園
・小樽経専（小樽商大）
・赤穂高校
②Providence　だと感じたから。
③一粒の麦もし地に落ちて死なずは唯ひとつにしあらん死なば多くの実を結ぶべし
④8ミリ
⑤特になし
⑥堅実で穏健な校風に好感が持てるが、生徒一人一人がハイカラにこじんまりとまとまっていすぎるような気がします。若い日の情熱をまともに、がむしゃらに思索と行動に、日本におけるこの時代にぶつけて、青春の時代でなくてはかちとることのできないsomethingを追求し獲得してほしいと思います。

だろう。その観点から歴史を眺めると、モイラによって、あの奇面で知られるギリシャ悲劇が進むように、一つの時代がカタストロフに向って一挙に転がり出す場面が少なくない。そうした危険、それを非常に多くはらんでいたのが、今、わたしの言う一九三〇年代なのである。

歴史がスパイラルな回帰という意味でくり返される

GNPが成長を遂げる。―

二年前の盛夏の幻の如き日

本の姿ではない。これは、一九二〇年代後半、つまり二九年の大恐慌前夜のアメリカ、リンドバークが、大西洋を越えた時、その眼下に見た夜の灯いまだ消えぬ不夜城の如きアメリカの姿なのである。（「」の出

寄稿　3Dミネルバのふくろう

典は、ザ・ワシントン・ポスト）誰が見ても昭和元禄だと言われ、その爛熟した文化を享受していた日本に、そして、その盛栄も、公害が顕著化しながらも、日本が、東南アジアに進出し、経済的に掌握してこれまた一九三〇年代の夢であった「東亜共栄圏」を戦後三〇年を要して営々として造り上げたその盛栄と似かよっている。それは、軍需景気という点である。一九三〇年代のアメリカは、第一次大戦による欧州の没落によって、日本は、これまた皮肉な話だけれど、そのアメリカのベトナム介入によってその盛栄を手に入れたのである。そして、やって来るのが、設備投資過多による大恐慌、資源のない国のフッショ化、軍国化への道だったのである。

緩和による再インフレ、軍事費の増大による貿易の硬直化、それに伴う国際緊張の縮小、ブロック経済化）の起こりうる可能性が大だ

級への権力の集中、私物化が起こると民主主義は崩壊する。その崩れ方はあまりにもろい。国民が「資本主義では、もうだめだ」と思い込む時、最も、喜ぶのは第二のヒットラーと共産主義者だろう。国民が中道では生ぬるいとしてより刺激的なものを志向する時は、革命、クーデターの絶好のチャンスであり、事実、大恐慌による不況、社会不安を背景にして、全体主義は台頭したのである。ここでわたしが特に指摘したいのは、日本におけるこの時代の二重構造である。一九三〇年代として写真集を繙くと、二・二六や満州事変に代表される「撃ちてしやまん」映画が封切られたりしてエロ・グロ・ナンセンスと言う一面が妙にからまっていることがわかる。大正デモクラシーは、この時、政争に明け暮れ、政策を持たない議会政治と言う朽ちた土台の上にあり、風前の灯だったのである。そして人々は、退廃した風俗の中に身を置いていて、突然、召集令状を受け取るのである。

話を元に戻そう。三〇年代の不安の象徴はなんといっても不況だろう。その不況の不安も、今、我々の手にある。しかし、これは、あの時のような、もうこれ以上の悪化を見ることはないだろう。なぜ、あの時代とは違って、我々には、ケインズ理論があるからである。これに従って、恐慌を回避できるビッグガバメントが作動するだろう。しかし、我々は不況がこれ以上悪化はしないと言って、安心するわけにはいかないなぜなら、恐慌なしに恐慌

後の事態、（つまり、金融緩和による再インフレ、軍事費の増大による貿易の硬直化、それに伴う国際緊張の縮小、ブロック経済化）の起こりうる可能性が大だ

さぼろうとする行為である。これで確かに個人資本は増大する。しかし、資本主義が資本主義から離反して行き。しいては、資本主義の危機を招き、全体主義、共産主義の台頭を許す事になりかねない。資本主義の敵は、共産党でも、過激派学生でもなく資本家が初期資本主義の健全な精神を忘れているという現代の退廃な

のである。メディチ家や、フィッガー家のように経済全体に対して独裁的な財閥であると言う立場にないからも知れないが、ただ、資本の原理のみに固執すると、思わぬ反動を買う危険性があるのである。

さて―こうして資本主義の危機を語って来ると、君たちの中には、いっその事資本主義を崩して新しい社会をつくったらというラディカルな考えが生まれてくるかもしれない。しかし、新体制つまり全体主義あるいは、共産主義には独裁によって自由が奪われる危険がある。共産主義者は、又あたかも資本主義体制下のように、民主主義がないかの如き事を言う。しかし、彼らは、その時、単なるデマゴークに過ぎない。なぜなら経済体制と政治形態とは、一線を画して考えるべきものであるし、民主政治がおこなわれないのは、資本主義体制だからではなく、日本の政界が混迷し、信念ある政治がないためである。又、欧米況と違って日本のそれは、競合的寡占だからで、それがカルテルを結ばない以上信念ある政治の邪魔となることはない。又、彼らは「資本主義は戦争が好きだ」とも言う。が確かに資本家特に先の見えない資本家は武器貿易で利潤を得ている。しかし、それは資本主義の健全な姿ではない。健全なそれは、体質的にそれを嫌うのだ。例を出せば、ナチス登場以前のドイツの軍事費は日本と同じ、GNP比1％以下

それをヒットラーが十五％にした。軍需景気でドイツは急に調子よくなる。こうして。国際経済はドイツの秩序なき復興によって、乱れ、大戦に至るあつれきを招いたのである。その中でドイツの資本主義は死ぬ。

さて―こうして資本主義だろう。つまり、資本主義の発達するためには平和が必要なのだ。　その中でこそ日本のような加工貿易国は、ビックビジネスにも、アングロサクソン一流の帝国主義的寡占による資本主義の硬直化という民主主義の死滅から脱却できるのではないだろうか。ソルデューツ一流の一市場件でもわかるように、プロレタリア国際主義を唱えながら土の臭いに訴えたがる共産主義のナショナリズムよりは、今、我々が平和のために選択すべきは国益エゴを捨てた国際的視野だろう。今「時代は混迷から抜け出そうとしている」だが、今、この一九七五年が三〇年代の危機感を持っていることを我々は自覚しなければなるまい。

又、今までは大国の核の下にいれば力の均衡で世界は動いた。しかし、今、世界は社会的に分化を起こしている。そして食糧、原料が底をつけば、世界はより嫌悪になるだろう。その時平和を守るのは、今の大人たちの次の世代、つまり我々なのだ。そして、それを守ろうとする中でこそ、我々が、この倦怠から脱け出れるのではないかと思う。―時代は、今、倦怠を引きづって推移する。―

むだごと　2年FK生

このごろ殺人事件が増えていますねエ。人間が人間として扱われていないんです。人間性の崩壊とでも申します。人間の人間への思いやりがなくなってきました。

別に、三木何とかさんがいけないんでもないだろうし、倫社で言う高度経済成長がいけないんでもないでしょう。人間一人一人の自

覚が足りないんでしょう。これだけ世の中が荒れていれば「世直し」のやり甲斐がありますよ。なんてったって、これからの社会を背負って行くのは我々ですかね。

ところで皆さん、その世の中を背負って立つ我々の仲間が……つまり青年期にある人間のことですがね…暴走族なんて自称して、小汚ないバイクを乗りまわし、他人の眠りを脅かしているんですよ。勿論この伊那谷だって例外じゃありゃしない。僕達一人一人の〝力〟がそんなものだと思うとでもね、これを書いている僕自身、こんなもの書いて何になるんだと思うと、なんとなくこわくなってくるんです。結局僕の言ってること何人の人にわかってもらえるんだろう……。

高健児の叫び

悲憤

2D　暮石英俊

沈丁花の香りが春の序曲を告げ、花信しきり至る四月、僕は激しい憤りをおぼえた。それも悲しみの憤り悲憤なのである。伊那北の生徒が無智、無能、非常識反モラル的、馬鹿、白痴、紋切り型の典型である。ということを対面式で新入生に対し、物を投げるという痴態？をして、まざまざと見せつけられたからである。

たしかに、これは新入生に対する歓迎の方法だ。しかし、その投げたものが誰かに当たり、怪我などしたとする。その時に誰が投げたか？と問われた時に名のり出られるのか／てめえの行為に責任を持てないことが、善だといえようか。真んな無意味な生徒会など存在しない方がいい。例の梅組のくす玉とそ対面式の流儀としては理にかなっていて、新入生への歓迎の意の現をすれば、生徒会は新入生を失望させ、戦慄させ、二・三年生と一年生との溝をつくるよう、会員をアジテーションしているのだ。本当に歓迎する気があるなら、歓迎の意を表せ／

生徒会誌「薫岡25」の13ページに書いてTK君は対面式についてこう言っている。「今年（現在二年生が入学した年）の対面式は対面式でない。物を飛ばしたり方が実のある対面式だ。」と。また「対面式で物が飛ばなかったのは、学校当局の圧力によるものであり、やめざるをえないことに憤を覚える……。」と。ではTK君、一張羅に生卵をぶつけられ、喜んで「もっと もっと…／」なんて頓狂な声を出すかい。そうだとしたら君は、こまわり君と、浦野拇君に勝るとも劣らない変態だよ。正常な、自尊心のある人間なら、黙ってはいまい。にえくりかえる憎悪を顕示して憤然といきり立つだろう。これでいいのか。連鎖的に刈那的に人がやるから俺も。上級生と下級生との溝をつくり、互いに敬遠しあうことにもなっている。

また物を投げた人に忠告する。きみ達は露悪症なのかい。新入生に「僕はこういう方法でしか、歓迎できない無智なのです。」と暴露しているのだ。逆に新入生の脳裏をかけ巡るのは、「バカ達め、気のすむようにやれ。これじゃあ、大学合格率は……。」ということになる。虚勢はやめたまま、滑稽でならない。卑劣な、苛酷な行為はやめたまえ。今年を最後に対面式のイメージを変えるべきだ。伊那北生のモラルのバロメーターであるのだから。

祭り騒ぎ、物を投げることイコール、生徒会員の生徒会への関心を促すと考えており、これを肯定し、推進しているように思える。こ

無題

1A　有賀貞文

先ず最初に学校の印象から書きたかったのですが、現在、自分もその環境の中で生活しているので、印象は薄れました。ただ、入学試験の時に、校舎の新しいものと古いものとが雑居していて、アンバランスに思ったことや、机がボロかった程度のものです。入学したばかりは、コンパや応援練習等で、一年生の切なさを感じたものですが、実は先輩も、皆いい人ばかりだし、圧迫感もなく、結果として、非常に自由な雰囲気で、入学して良かったと思う次第です。

高校生というものは丁度肉体的、精神的に最も成長充実する時期であると思います。で、次にその大切な高校時代をいかに過ごすかについて、今後の抱負を述べてみたいと思います。

学習面では、此の間の中間考査で多大なショックを受け、いまだにそのドロ沼から這い上がれない状態にあるのですが、特に生物、地理などは、こんなに難しい問題がでるとは思わず、自分の甘さをいみじうあわれに感じました。ここは中学とは違うんだ／というこをもっと自覚すべきです学生の本分は学習にあることは忘れずに常に努力していくべきであります。不撓不屈の精神です。クラブやその他の活動との両立は自らの手で確立せねばなりませんね。

クラブについては、個人〈〉別々のクラブで、感じ方を様々だと思うのですが僕自身、青春の総てを賭けてよきものだと思います。内には、何の意志もなく、フラフラと入った人もいるようですが、そういう人はクラブに入る価値なし／目標をもって入部、活動すべきで、高校生活にクラブの思い出がないなんてことになったら、大変切ないことでしょうね。自分自身で好きなことに夢中になって取り組み、一つのものを完成させる、それがクラブのすべてであり、青春であるのです。

いよいよベン祭も近づき学校もあわただしくなってきましたが、一年生にとっては、何せはじめてのベン祭で、何かとわからない点もあるのですが、自分達の文化祭として精一杯努力していきたいと思います。

思い浮かんだことを、たらたらと書いてきました。この原稿を頼まれたときは面倒臭いと思いましたが、今考えて見れば、こうして書いてみなければ、もう一度、現在の自分を振り返ることもなかっただろうし、ちっとは国語力も糞われたというものでしょう。

そうして何でもやってみることが（余り大したことではないが。この場合）「主体」を確立する第一歩であり、一つのものを完成させる、それがクラブのすべてであり、青春であるのです。

いよいよベン祭も近づき学校もあわただしくなってきましたが、一年生にとっては、何せはじめてのベン祭で、何かとわからない点もあるのですが、自分達の文化祭として精一杯努力していきたいと思います。

思い浮かんだことを、たらたらと書いてきました。この原稿を頼まれたときは面倒臭いと思いましたが、今考えて見れば、こうして書いてみなければ、もう一度、現在の自分を振り返ることもなかっただろうし、ちっとは国語力も糞われたというものでしょう。

そうして何でもやってみることが（余り大したことではないが。この場合）「主体」を確立する第一歩であり、一つのものを完成させる、それがクラブのすべてであり、青春であるのです。

いよいよベン祭も近づき学校もあわただしくなってきましたが、一年生にとっては、何せはじめてのベン祭で、何かとわからない点もあるのですが、自分達の文化祭として精一杯努力していきたいと思います。

今回のクラスマッチは、三年生の大奮戦に会って一・二年生の上位入賞は見られず、総合・各種目において一・二年生の三位以内入賞はわずかに三つであった。

また、職員チームの男子卓球第三位入賞は一段と光っているが、これから人生皆さん、自分の為に、我が伊那高の為に頑張っていきましょう。

青春には不可能を可能にする力があるのです。最後に……何もいうことはありません。

去る五月一日（木）よく晴れ渡った空の下、春季運動クラスマッチが無事終了した。

クラスマッチ　3C優勝

〈総合〉
優勝　三C　五十点
準優勝　三B　四十五点
三位　三A　四十五点
四位　三E　三十五点
三D　二十五点
注（準優勝、三位の決定は優勝種目の多いクラスが上位。）

〈ソフトボール〉
優勝　三A
準優勝　一C
三位　三D・二D

〈バレーボール〉
優勝　三B
準優勝　三E
三位　三C・三A

〈バスケットボール〉
優勝　三C
準優勝　三E
三位　三D・二C

〈卓球〉
優勝　三B
準優勝　三C
三位　三A・職員

〈女子バレーボール〉
優勝　F
準優勝　A

〈女子卓球〉
優勝　C
準優勝　D

の下り坂へと向いつつあるお年寄り達（？）に上位入賞されるとは…。我々のふがい無さの現われなのだろうか。

今回一点も取れなかったクラス、女子の得点しかなかったクラスは秋季クラスマッチでガンバッテください。

大学だより

名古屋工業大学

埋橋　徹

中央線鶴舞駅下車五分周囲には鶴舞公園や名古屋大学付属病院（略して名大病院）がある市街地にしては、割合恵まれたところに名古屋工業大学（略して名工大）があります。学生街といえば、曙町あたりを指して言うと思いますが、古く静かなたたずまいの多いこのあたりは、まさに名工大にふさわしいと言えましょう。麻雀荘、喫茶店、古本屋も多くあるというそうですが、そんなに目につきません。とにかく名工大は目立ちません。工業大学はどこもこんなものでしょう。学生の出で立ちは、さまざまですつい先日、白のスーツできっぱりときめた学生が授業に遅れて教室に入ってきたので皆に先生と間違えられたなどということもありましたが、こんなのは極まれで、ほとんどの人達は質素です。

学校の敷地が狭いせいか校舎が林立し、三千人近くの学生がひしめき会っています。全んどが男ですので、地味で、むさくるしいのでしょう。授業は、一年から専門の教科を履習しますから、張り合いがあります。授業時間は高校と同じかそれ以上位で学科により異なります。試験は年二回で百点で五十点以上得点しないと単位をくれず、また二年の終わりまでに決められた単位数しないと三年に進級できません。今年、土木、繊維などは三〜四割位しか進級できなかったようです。もっとも。普通八割位はパスだそうです。また卒業時にも、卒業認定制度のようなものがあり、四年で卒業できる人は、六〜七割位だそうです。ですから、この不況時にも、卒業生は一流企業からひっぱりだこだそうです。もっとも、成績の良い人はほとんど大学院へ行きますから、卒業さえすれば就職には困らない訳です

遊びといっても、近くには麻雀荘位しかありませんし、名工大生はほとんど貧乏人なので皆、妥協したように麻雀を好んでします。僕は嫌いなのでやりません。（これはホント）また、名工大生はほとんどが近くの女子と名のつく大学や短大と合同ハイキングみたいなのをやります。が、気に入った人に会えないのかとにかくいろいろな太学や、短大とつきあいが多い。名古屋は美人が少ない（？）と痛感せずにはいられません。こちらは期待しない方が良いでしょう。

僕は今、工大祭実行委員会という自治会でも強力な団体のメンバーですが、ここに所属して思うことは、名工大は実に利己的だということです。工大祭の費用が例年の二分の一にされてしまい、委員会では、デモやらその他いろいろやりましたが、ほとんどといって良いほど無関心です。毎年一万人程の来校者、しかもほとんどが十〜二十代の女性とくれば熱がこもるというものなのに…。やはり名工大は学問一途なのでしょうかねえ。

大学生ともなれば、クラスの中にも変なお和のようなものが生まれます。受験地獄は一応脱したしそれに何よりほとんどの人が、名大や京大、阪大の落ち武者という共通点を持っているためか、ちょっと知らない人に声をかける勇気のある人なら困るほど友達ができます

知らない人と話しをする時、必ず生まれ故郷というか、出身高校というか、とにかくそんなことから話を始めますが、悲しいかな、伊那市の名を知っている人はほとんどいません。伊那北高校もここでは無名高校です。来年本校を受験する人、がんばって〆

ほとんどの名工大生が愛知・三重・大阪と、関西熱が中心をおかしています。そのため、大阪弁が公用語です。教科書を買う時、ほとんどの人（ん／おおげさかな？）が、「それ、なんぼや？」と言うのには、まいりました。また、僕の友達も名古屋出身の人が多いので一生懸命名古屋弁を覚えようとしていますが、なかなか難しいです。

それから、例年名工大には現役が多く入学するのですが、今年は浪人勢が多いような気がします そのせいか、授業が終わると教室内は煙草の煙で黒板がかすむぐらいになります。

とにかく、一見して社会人か大学生か判別できない人が多く集まった、〝新しい社会〟の中に僕はくらしています。それはまだはっきりとわかりませんが、とにかく毎日が新鮮です。

一生懸命好きな学問をやってみたい、いろいろな人達と交わりたい…etc、今が一番一生で夢多き時かもしれません。

薫ケ岡からさらに多くの諸君が来年入学されるのを祈りつつ、ペンを置きます。

コーヒー・ブレーク

▼近頃、やたらと雨が降って大変うっとうしい日があると思えば、蒸し暑い日が続いたりして、ペン祭準備・期末テスト・新聞発行のトリプルパンチを食らった小生をさらに〝いじいじ〟させるのですよ。しかし、神様も見捨てたものでなく小生を元気づけるべくK君を差し向けてくれたのです……K君曰く『え／テスト なんかあったの？』

▼先日、野球部の合宿がありまして、我がクラスのT君も合宿に参加しました。そこで我等一同、T君が練習疲れで弱ったところをみんなでイジメようと企てたのですが、彼一向に弱った気配を見せず、彼が如何に練習をまじめにやっているかわかる。……伊那北今年も甲子園の夢果せず。

▼ある一先生、なんとも思い出したのか、マラソンをし始めた。ところがこの先生まじめにエイコラエイコラ、たった数人の女生徒曰く……『あ／ペンギンが走ってる。』

▼先日各教科に多数の教育実習生が来て、勝手気ままに授業をやってった。化学の某教生が接頭語（？）の「エート」を連発、彼は〝エイトマン〟と名づけられたとか……。

▼南電の諸君はもうみんな知っているかもしれないが朝八時頃伊那北駅のチョット手前の家でカワイイ女の子が、電車に乗っている二年生の某君達三人に毎朝かかさず手を振っている（小生も何度か見ましたが）。エゴイズムに染まった現代においては珍しい、小さな小さな心暖まる話しである

県総合体育大会

バスケ・弓道・決勝リーグ進出

先に行なわれた南信高校体育大会に続き、6月7・8日の両日に松本市を中心として各地で県総合体育大会が開かれた。この大会には本校からも、南信大会を勝ち抜いた多くの運動クラブが参加し、バスケット・弓道の大活躍など大いなる成果を得た。

陸　上
一〇〇m　準決勝
松沢郁夫　11秒6
四〇〇mリレー　準決勝
47秒4
バレー　三回戦
松商2―1伊那北
バスケット　第3位
・東海大3―77！57伊那北
・県ケ丘74―67伊那北
・伊那北82―60長野吉田
（バスケットは6月21日から松本市で開かれる北信越大会に出場。）

男子個人　ベスト8
中村文雄
（尚、中村文雄君は6月28日から富山県で開かれる北信越大会に出場。）
弓　道
男子団体　第2位
決勝リーグ　二勝一敗
・伊那北14―9下伊那農業
・伊那北10―9諏訪実
・岡谷工13―12伊那北
男子個人　優勝

尚、特集・第一面のペン祭関連記事に関する批判はクラスの刊行委員を通じて委員会の方へ御寄せ下さいまた、健児の叫びなどの原稿も募集しています。

桃沢和幸　八射八中
（尚、男子団体は6月21日から石川県で開かれる北信越大会に出場。）
また、男子個人の桃沢和幸君は昨年に引き続き全国大会に出場。）